

## 令和2(2020)年「正覚寺報」2月号

## ご案内

お聴聞は如来様のお育てに遇う大切な営みです。皆様どうぞご縁におあい下さいませ。

仏教壮年会お聴聞の会 2月2日(日)20時～

仏教婦人会例会 2月16日(日)19時半～

永代経&前々坊守 50 回忌

2月29日(土)13時半～15時半

## 人生の問いにどう応えるか

当院では、曾て、人生への問いを抱えてお訪ね下さった若者から「ご本尊を拝ませて欲しい」との真摯な要請を受けたことがあった。

その要請に道を開くと青年は自らご尊前で合掌礼拝して、「どのようなご利益がありますか」とお訪ね下さった。

これは自ら問いを発せられた場合であるから住職としては誠実に対応できる道が開ける。

問題は御門徒さんではあっても、日頃からお聴聞の機会に乏しい方々の場合である。

衆生の浄土往生は如来様のお仕事だから、導師自ら人々の浄土往生を云々できない。

僅かに当院で実践的に取組むようになったプラクティスは、次のようである。

・ 入棺文に認(したた)めた「**破地獄(はじごく)の御文**」の佛意をお通夜の御法話で丁寧にお取り次ぎする仕方が一つ。これは迫力に恵まれる。

・ 死去参りでは、「往相ノ還相」の営みを謳い上げた「私が船出するとき」を丁寧に朗読する。近頃、仏心豊かなご遺族が少なくなき、涙してこれをお受け止めになる。

## 友人から頂戴した寒中お見舞いのご挨拶

今春、寒中見舞いをお送り下さったお方は、法性法身と方便法身について、「**法性法身によって方便法身を生じ、方便法身によって法性法身をあらわす。**」と仰せになり、続いて「**プラクティカルなお念仏ありがとうございます。**」と仰せ下さった。

前半は法性法身と方便法身の関係を端的に表現なさったものであり、これほど平易に表現をなさった例を私は曾て見たことがなかった。

法性法身とは、色もなく形もましまさぬ法身であり、このままでは衆生はどのようにして法身を頂戴してよいのかとりつく島がない。

一方、方便法身とは、そのような法性法身からその本質を「おすがた」と「お喚び声のはたらき」として垂名示形(すいみょうじぎょう)して具体的にあらわして下さったものだからこれ程分かり易い例はないことになる。

これは、容易ならざる曇鸞大師の『往生論註』巻下の御文(七祖註釈版 p139)を随分優しく端的に表現して下さったものである。

後半は、第十七願の「諸仏如来の名号讃嘆」の回向に恵まれて、自らも又、これに随念して、お念仏してみたいと念願して実践するお念仏であってこれをプラクティカルなお念仏と称する。お念仏は如来様のお手許で成就した大行であるからこれを頂戴してお念仏すれば、直ちに如来様のお喚び声となって聞こえて下さるお喚び声に耳を傾ける(聞名)とき衆生は信心獲得し、お救いに与っているからである。合掌。